

## 2017 春闘妥結にあたっての見解

JR 東労組バス関東本部は、2017 JR 総連春闘の一翼を担うべく基本給一律 6,000 円の引き上げ（定昇を含まない）と契約社員 B の基本日額 300 円引き上げ、定期昇給実施と 3 月 30 日の回答指定日を求め、組合員・家族と共にたたかい抜いてきました。

今春闘は、3 月 15 日に大手企業の経営側が労働組合の要求に一斉回答し、基本給を底上げするベアを 4 年連続で実施するも人件費の上昇に慎重な姿勢を崩さず、引き上げ幅を昨年よりも抑える企業が相次いだなかで交渉は厳しいものとなりました。JR バス関東会社は第 3 四半期決算で過去最高益の 9 億 3500 万円を計上し、「ベアを出せる体力は十分にある」「ベアを継続していくことの重要性」を示しつつも「燃料高騰の見通し」「今後も膨らむ人件費」を主張し、議論は真っ向から対立しました。

JR バス関東本部は 2 月 24 日に申 11 号「2017 年度賃金引き上げ等に関する申し入れ」を行って以降、創立以来の最高益を出した原動力は JR 東労組組合員の努力であること、これからのバス業界は労働条件向上をつうじた人材確保・育成の強化が重要であることを主張してきました。そして「春のたたかい総決起集会」では JR 総連春闘をいかに担い、職場から創造的にたたかいをつくりだしていくことを意思統一し、賃金本質論をバス東北の仲間と共に学ぶ「塩浜集会」を計 4 回開催、また今回初めて全組合員による「春のたたかいメッセージ行動」を展開し、17 春闘にかける職場の熱い思いを背景に交渉を重ねました。

その結果、会社から昨年同額の①一律定額ベア 500 円、②定期昇給の実施、③60 歳以上の契約社員 B 日額 80 円の引き上げを確認、さらに今後、昼夜バスの運行を支えている車両整備士や運行管理者の手当改訂、そして社員間格差を是正する為に新制度社員の定期昇給額改正の議論を精力的に行っていくことを確認し、3 月 30 日に席上妥結しました。厳しい春闘相場のなかで昨年同額の一律定額ベア 500 円を獲得したことは大きな成果です。また組合員同士の意識が分断される「新・旧制度社員間のベア額に差を付けたい」という会社の狙いを許さず一律定額ベアを確認したこと、JR バス関東を支える 60 歳以上の契約社員 B 日額を初めて引き上げたことで契約社員の労働条件改善に向けた風穴を開けることもできました。

この成果を実現することができたのは、バス業界と JR バス関東・JR バス東北の未来の為に職場から練り上げた「人材確保及び育成とバス労働者の社会的地位向上」「安全・健康・働きがいの実感できるバス業界の確立」「職場と地域の連携で共に発展する公共交通」の政策を実現させるたたかいと、職場の労働条件向上のたたかいを地道に積み上げてきた結果です。私たちは JR 東労組運動の柱である総対話行動によってつくりだした組織力、そして連帯する全ての仲間・労働組合と共につくりだした大きな成果を改めて全組合員で確認し、職場からの団結をさらに打ち固めよう！

最後にこの間の分会、支部、地本、中央本部からの支援激励と、交渉団を支えてくれた組合員・家族の皆さんに感謝を申し上げ、JR バス関東本部の見解とします。

2017 年 3 月 31 日  
東日本旅客鉄道労働組合  
JR バス関東本部